

# 視障9条の会ニュース 第38号

2017年2月5日発行  
北海道視覚障害者9条の会(視障9条の会)  
〒003-0026 札幌市白石区本通2丁目南5-5  
電話 090・3391・7423(吉田)  
メールアドレス heavy@rio.odn.ne.jp  
振替 02790 - 1 - 45225

## 学習会報告

～日本は、ほんとに独立した国家と言えるのか、皆が抱いた疑問～

1月22日の午後、「日米地位協定」をテーマに定例の学習会を行いました。参加者は11名。幹事の池内さんの進行の下、講義を聴き、質問や感想を述べ合った、あっという間の2時間でした。

講師にお迎えした旅システム社長内山博氏は、「難しい条文そのものに深入りするよりも具体的な事例から学びましょう」と、豊富な事例を示しながら、とてもわかりやすく解説してくださいました。配布されたレジュメには、地位協定によって在日米軍が持つ特権の具体例や、特に沖縄県民の生活にかかわりの深い事例、米軍駐留に伴う経費負担に関する諸外国との比較などが紹介されています。そのレジュメの項目とそこから学んだことをいくつか紹介してみましょう。

- ・日本国内のどこでも、米軍基地などに利用できる。

本来であれば、1951年講和条約締結とともに占領軍はすべて引き上げられるはずだったが…日米安保条約により米軍は駐留を継続。この安保条約を支えるのが日米地位協定である。

- ・パスポート、ビザなしで出入国は自由。

「現在日本に何人くらい米軍に関係する人がいるかわかりますか？」との講師からの質問に、皆「わかりません」「はい、それが正しい答えです。これは、私たちがわからないだけでなく、日本政府も、正確な人数など把握していない、把握できないようになっているのです。」

- ・米軍の公務中の事故などの損害は、日本国が支払う。

- ・米軍兵士の犯罪は、起訴するまで米側が身柄を確保。

- ・地位協定の運用について話し合う日米合同委員会の内容は原則として公表されない。

地位協定というものは、もちろん日本との間だけに限らず他国との間にも存在する。しかし、対イタリア、対韓国などとの協定では、合同委員会は文民同士で行われるが日米地位協定では、アメリカ側は軍人が対応する。等々。

また、沖縄経済の米軍基地依存に関する質問が出され、これに対して数値を示しながら、現在では全くそのようなことはない、と回答されました。

日米地位協定については、これまでも2回にわたり、テキストの読み合わせを中心に学習してきましたが、基地駐留にとどまらず、航空機等の事故や犯罪時の対応、思いやり予算の負担など、日本にとってあまりに露骨で不平等な事例を前にして、皆、怒り、ついにはあきれってしまうほどでした。

最後に、今このように学んだことを、しっかりと持ち帰り、他の人に伝えることが大事で

あること、それでこそ学習会の意味があるというもの、とまとめをして終了しました。

本テーマに実に造詣が深い内山さん、まだまだ伝えたいことがおありだったようですが、学習会終了後の幹事会でも、皆で「有意義だった」と振り返ることが出来ました。本当にありがとうございました。文責 吉田重子

★レジュメがご入り用の方は、吉田までご相談ください。

## 定期総会のご案内

日 時：3月19日(日) 午後2時～4時

会 場：札幌市視聴覚障害者情報センター研修室

参加費：500円(茶菓代)

出 欠：吉田または担当幹事まで

締切り：3月10日(金)

### 内 容

#### 第1部 落 語

斬捨亭御免(きりすてごめん)さんの落語を聞いて大いに笑いましょう。斬捨亭御免さんは、北大落研時代の研鑽を生かして現在札幌でお仕事の傍ら、高座で活躍していらっしゃいます。



#### 第2部 総 会

\*総会后、例年通り、若干の時間ですが、出席者で交流の時間を持ちます。

総会は、本会の活動について考え、意見を出し合える場です。一人でも多くの会員が参加できることを願っています。

### 編 集 後 記

アメリカ第一主義。トランプ新大統領の演説は、ヒトラーのそれと類似しているという見方がある。マスコミは支持率の低さを強調する。たしかに、就任当初にしては、低い支持率で盛り上がり欠けるかもしれない。しかし、一方で40%、半数弱の国民が指示しているという事実。これからのアメリカがどうなっていくのか、ほんとはどうなっていくことが望ましいのか、私には、よくわからない。それでも、この「アメリカ第一主義」民族の優劣を分けていきそうなこの流れ、支持する力、を私は警戒している。

総会でお会いしましょう。(S.Y.)

ニュース送付に多額の郵便料金がかかります。メールによる連絡にご協力下さい。

メールアドレスお持ちの方、下記まで是非お知らせ下さい。

メールアドレス h-kunita@lapis.plala.or.jp (國田)